

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざした教育活動を展開することで地域社会を支える人材を育成し、地域とともに歩む学校をめざす。

- 生徒に育みたい力
- 1 確かな学力を身につけ、自らの進路を選択し、希望を実現する力
 - 2 自らの考えを発信できるコミュニケーション能力
 - 3 部活動や各種行事、地域との連携事業等を通じて、周囲との協調性と豊かな人間性
 - 4 社会体験をはじめとするキャリア教育によって、将来社会に貢献する意識
 - 5 困難な局面を開ける課題解決能力の醸成

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし絶え間ない授業改善に取り組む。
- ア 授業力向上委員会を核に、公開授業、研究授業、相互参観、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。
- ※「授業アンケート」による5つの授業評価軸平均(平成26年度2回目3.10)を毎年引き上げ、3年後に3.15にする。
- イ 学校経営推進費を活用しICT機器をとり入れた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器が授業等で活用されている」に対する満足度(平成26年度65%)を3年後に75%にする。

2 進路指導の充実

- (1) 学習指導と進路指導を連結させ、生徒の希望する進路の実現を支援する。
- ア 全校的な取組みにより、生徒の学習習慣の確立を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間を確保している」に対する肯定率(平成26年度33%)を3年後に40%にする。
- イ 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「放課後や長期休業中の補習・講習を十分行っている」に対する満足度(平成26年度70%)を3年後に76%にする。
- ウ 3年間を見通した進路プログラムを設定し、きめ細かいキャリア教育を実施することで、進路希望実現を図る。
- ※関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、京都産業大学、近畿大学、甲南大学、龍谷大学、関西外国語大学の合格者を3年後に30名にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度(平成26年度80%)を3年後に86%にする。

3 生徒指導の充実

- (1) 基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
- ア 挨拶、身だしなみ、美化活動の改善・定着、遅刻指導の強化に向け、全教職員での取組みを図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定率(平成26年度67%)を3年後に76%にする。
- ※年間遅刻者数を3年間で2割減にする。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
- ア 部活動や各種行事を通じて、周囲との協調性、課題解決能力を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的に取り組んでいる」に対する肯定率(平成26年度67%)を3年後に75%にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度(平成26年度78%)を3年後に85%にする。

4 地域と連携した魅力ある学校づくり

- (1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで地域の人々と交流する」に対する満足度(平成26年度63%)を3年後に70%にする。
- (2) 人権尊重の教育、心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性を育む。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の人権意識育成姿勢」に対する肯定率(平成26年度73%)を3年後に80%にする。
- (3) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、清掃活動への徹底を促す。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の美化環境」に対する肯定率(平成26年度63%)を3年後に70%にする。
- (4) 開かれた学校づくりの推進
- ア 学校運営への一層の協力・理解を求めため、保護者に対する情報提供の工夫を凝らす。
- ※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」に対する満足度(平成26年度74%)を3年後に80%にする。
- イ 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、本校の教育活動の内容を積極的に情報発信する。(中学校などへの訪問活動の充実)

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校への改編の計画実施に伴い、学校運営の機動性を高めるため組織力の強化を図る。
- ア 学校運営の機動性を高めるため、運営委員会や将来構想戦略委員会の活性化を図り、多様な計画を実施する体制を確立する。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- (2) 校務処理システムの活用による校務の効率化を図り、教職員の事務作業の軽減化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「本校に入学してよかった」がこの3年間80%以上を保持している。保護者は90%を超えた。 ・「学校に行くのが楽しい」は、この2年間生徒保護者共に80%を超えている。学校の諸活動に対して一定の満足度があると考えられる。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上に向けた取組を昨年度に引き続き実施しているが、「教え方に工夫をしている先生が多く授業はわかりやすい」の生徒の肯定的な 	<p>第1回(6/12)</p> <p>○学校経営計画の説明、分掌・学年から報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の高校に比べて遅刻は改善されていると思う。他校では精勤賞を設けている。 ・スカート丈の指導は中学で実施しているので、高校でもできるのではないか。 ・火災訓練から地震対策を入れた訓練が変わってきた。兵庫県はよく取り組んでいる。 ・生徒指導の目標について、全職員での指導体制の確立が重要である。自転車指導は重大事故を防ぐことが第一の目的である。 ・大学でも奨学金を利用する学生が増加している。 ・小学校では、掃除は自分を見つめる機会と捉えている。

府立みどり清朋高等学校

回答が 68%→62%と下がっており、かつ教員の自己評価 71.4%に比べると低く、その原因と改善が課題となっている。

- ・「ICT機器の活用」については、生徒の肯定的な回答がこの3年間 55.7%→65.4%→62.2%と推移しており、ICT機器の活用が一定レベル定着しているが、より一層の活用をめざして、研修等を実施していく必要がある。
- ・生徒の「授業での発表等の機会」が毎年上昇して 46.5%となったが、より一層の充実を図らなければならない。
- ・生徒の「家庭学習時間の確保」については、36.0%と低迷しており、学習習慣の定着への働きかけの工夫がいる。

【生徒指導等】

- ・生徒の「生活指導は適切である」や保護者の「生徒指導方針は理解できる」はこの3年間 70%台を維持している。今後も本校の方針の理解を得ながら生徒の指導を進めていきたい。
- ・生徒の「進路指導等が適切に行われている」や保護者の「将来の進路について適切な指導を行っている」が昨年と比べて少し下降している。進路指導やエリア・科目選択については、年2回の懇談や各種説明会で相談体制ができてつつあるが、細やかな個別指導が一層求められていると思われる。
- ・「文化祭、体育大会などは楽しく行えるよう工夫がある」については、生徒保護者とも8割前後ほどが肯定しており、今後も生徒の主体性を大切にしながら取り組んでいきたい。
- ・年度当初の部活動体験期間の設定などの生徒への働きかけにもかかわらず、「部活動を積極的に取り組んでる」が 66.6%→59.9%と下降した。部活動活性化への方策再検討が必要である。

【学校運営等】

- ・各学年や部では意思統一が行き渡り、「学年・分掌の仕事は組織的に行われている」について、教員の肯定的回答は 69.8%と毎年上昇している。また、「分掌・学年等の連携はうまくいっている」についても、毎年上昇し 55.6%となった。今後も、組織的な運営が行き渡るようにしたい。
- ・「教育情報の提供」については、保護者の肯定的回答が 73.5%、教員が 71.4%と、保護者と学校との認識のずれが縮まったが、一層の努力が必要である。

- ・愛媛では、5限の前に全員で掃除をしている。
- ・来年度の入試における調査書の大幅変更があり、大変厳しい状況である。
- ・みどり清朋卒業生は進学後もよく頑張っているので、在校生もどんどん励ましてやってほしい。
- ・スマホ依存の生徒が増えているが、スマホ使用の研修や指導が必要である。
- ・夏期講習等は学年独自ではなく、進路が中心となって学校のシステムとしてやる体制が必要だと思う。

第2回 (10/7)

○分掌、学年からの重点目標の進捗状況報告について

- ・生徒の状況を聞いてみると、重大な事象になる心配がある。担任等が生徒の状況把握の感度を上げることが必要である。また、担任が抱え込まずに、組織だった対応が重要である。
- ・自転車の事故が増えているので、自転車保険を義務化するような取組はどうか。
- ・スマホ等について、教員が生徒に指導するために学ぶ必要がある。
- ・オンライン講習はどんどん活用してほしい。その際、経済的に苦しい生徒への援助を考えてもらいたい。
- ・不登校の生徒はどのくらいいるのか。家庭環境の変化を速く察知することと、保護者への指導を工夫してほしい。

第3回 (2/8)

○学校教育自己診断アンケート、授業アンケート等の結果について

- ・保護者の満足度が高いので、回収率も上げてほしい。
- ・小中学校の実践を活かしてHPや携帯連絡網の更新頻度を上げてもらいたい。
- ・奨学金等の制度や現状を、アルバイトの事も含めて丁寧に説明してください。

○分掌、学年からの重点目標の達成状況について

- ・分掌と学年の取組が少しバラバラの印象を受けた。内容をリンクさせるよう改善してほしい。
- ・小学校の様々な行事に協力してもらってありがたい。みどり清朋の生徒はたいへんやさしい。
- ・キャリア教育、人権教育等、3年間を通した計画を基に実施してほしい。

○全体を通して

- ・中学校でアクティブラーニングを取り入れた。目標をしっかりと伝えると、生徒は予想以上にやる気を出す。
- ・先生方の変えがわかった。様々な資料で学校のことを知ることができた。
- ・地域の学校として協力していきたい。生徒の自尊感情を育てることが大切である。
- ・携帯連絡網とHPを連動させて、今以上に取り組んでください。
- ・生徒の良い所、長所を引き出して、どんどん伸ばしてもらいたい。

府立みどり清朋高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組み ア 授業改善に組織的に取り組む イ 学校経営推進費を活用したICT機器の導入による授業改革	ア・授業力向上委員会を中心に、本校生徒にとって力を伸ばす「確かな学力」を身に着ける方策についての検討協議 ・研究授業推進月間の設定、教科毎の公開研究授業、相互授業参観の実施(年間2回) ・小・中学校との授業交流 ・授業評価アンケート(年2回)、授業評価に基づく校内研修会の実施(評価結果は生徒に還元し、双方向の授業改善に活用) ・実習・体験学習の推進(校外も含む) ・授業における学校外の人材の積極的活用 ・海外修学旅行での交流等を活用した、生徒の英語学習への動機づけや英語力の強化 イ・ICT機器をとり入れた授業展開 ・ICT活用研究と環境整備(他校視察、活用授業相互見学) ・教科内外での研修の実施	ア ・生徒向け学校教育自己診断における入学満足度を89%(平成26年度87%) 「エリアや授業は役だつ」を76%(平成26年度74%) 「授業はわかりやすい」を70%(平成26年度68%) ・授業アンケートの5つの授業評価軸平均を3.12(平成26年度2回目3.10) イ ・生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器の活用」満足度を69%(平成26年度65%)	ア・各学年分掌でエリアの諸課題を検討実施した。次年度は専門コース等の内容確認と2、3年生のエリア諸課題の改善に努めたい。 「入学してよかった」87%→82%(△) ・授業力向上の取組として、教員相互の授業見学期間を年2回設定し、グループで意見交換、全体で発表を行った。また、授業アンケート結果に基づく個人と教科での振り返りを行い、生徒へ結果を還元した。次年度は授業相互見学の方式をより工夫していきたい。 「エリアや授業は役だつ」74%→71%(△) 「授業は分かりやすい」68%→62%(△) 授業アンケート5つの授業評価軸平均(3.12)(○) ・小中学校との授業交流、海外修学旅行での交流計画等は計画通り実施した。 イ・ICT機器の活用は、環境整備によって「ICT機器を活用している」60%→62%と微増したが、生徒のICT機器活用についての評価は62%と微減。次年度は活用方法の再検討が必要である。(△)
2 進路指導の充実	(1) 進路実現の支援 ア 学習習慣の確立 イ 組織的な補習・講習体制の確立 ウ 進路プログラムを設定し、キャリア教育実施	ア・1年次教科別勉強法の徹底指導 ・1年次での習熟度別少人数授業の検討 ・学習の動機づけとしての英語検定、漢字検定等の資格取得促進 イ・校内講習体制の組織化(進路指導部主導の講習・補習) ・放課後、長期休業中の講習等の充実 ・自習室でのオンライン講習 ウ 3年間を見通した進路プログラムの実施 ・「生徒カルテ」の作成による生徒のキャリアデザイン支援 ・適時な進路情報を提供し、目標設定を支援 ・大学見学会の実施等、外部説明会への参加、卒業生との懇談会による進路意識の向上 ・保護者向け進路説明会の実施	ア ・生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習時間の確保」肯定率36%(平成26年度33%) イ ・生徒向け学校教育自己診断における「補習講習は十分行っている」満足度72%(平成26年度70%) ・関西8私大合格者を15名(平成26年度4名) ウ ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度を82%(平成26年度80%)	ア・入学直後に、エリアの説明とともに学習について紹介しその後は各教科で指導した。次年度も入学直後を重点とした指導を継続したい。 「家庭学習時間の確保」肯定率33%→36%(○) イ・放課後や長期休業中の講習、補習は、進路指導部が提案実施するサイクルが確立し、早朝講習も学年で取り組んだ。次年度はより充実した講習計画を立てたい。 「学校は補習講習を十分行っている」70%→66%(△) 関西8私大合格者4名→7名(△) ウ・進路指導部と学年団が連携して、3年間を見通した進路計画に基づいた各種取組みを実施した。総合的な学習の時間等を利用したキャリア教育、適性テスト、大学見学会、進路説明会を行った。資料に基づく面談や保護者向け説明会で、保護者の進路意識の向上を図った。次年度は、改編に伴い、3年間の進路指導計画を再検討したい。 「進路指導満足度」80%→72%(△)
3 生徒指導の充実	(1) 基本的生活習慣の改善・定着 ア 挨拶、身だしなみ指導と遅刻指導の強化 (2) 特別活動等を通じて自主性や社会性を醸成 ア 部活動と各種行事の活性化	(1) ア 全教職員による生徒指導の確立(各種会議で生徒指導の課題について共通認識を図る) ・生徒会を巻き込んだ挨拶運動の展開 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・携帯電話等の指導の徹底 ・保護者との連携を強化、特に遅刻の多い生徒への指導の工夫 (2) ア・入学当初の部活動への興味関心を喚起する体験入部等の実施 ・外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・生徒会行事における生徒の役割の増大	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立」肯定率を70%(平成26年度67%) ・遅刻者数前年比8%減 (2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的」肯定率を70%(平成26年度67%) ・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を81%(平成26年度78%)	(1) ア・全教員による登校指導や登校マナーや身だしなみの指導を行った。次年度は自転車の指導により力を入れていきたい。「基本的習慣の確立」67%→61%(△) 全教員による登校指導と遅刻常習者への指導強化により遅刻者数激減。次年度もこの体制を継続したい。 遅刻者数前年比30%減(3122→2197)(◎) (2) ア・学校説明会等での中学生への部活動見学、小中学校との連携行事での文化部アピール、入学後の体験入部期間設定等を行ったが、部活動や学校行事の更なる活性化にはつながらなかった。部活動の活性化の方策を再検討する必要がある。 「部活動に積極的」肯定率67%→60%(△)、 「学校行事満足度」78%→73%(△)
4 地域に信頼される魅力ある学校づくり	(1) 地域と連携した教育活動の展開 ア 地域交流・連携の推進 (2) 開かれた学校づくりの推進 イ タイムリーな保護者への情報提供 ウ 中学校等への広報活動	(1) ア 地域の学校や福祉施設などとの連携の推進 ・小学校・中学校への出前授業、保育所等での生徒の実習体験、自治会事業への参加 ・部活動での小・中学生との交流(出かける地域連携) (2) イ 積極的な情報発信 ・携帯連絡網やホームページの活用 ・保護者、地域への授業見学会実施 ・保護者向けの進路等の講演会を開催 ・学校行事におけるPTAとの一層の連携 ウ・生徒が活躍する学校説明会を開催(年6回) ・教員による中学校訪問の充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「地域との交流」満足度を66%(平成26年度63%) (2) イ ・保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」を満足度76%(平成26年度74%) ・携帯連絡網加入率を70%(平成26年度63%) ウ ・学校説明会への参加中学生数を800名(平成26年度734名)	(1) ア・地域の幼小中学校との交流、出前授業等は交流先でも好評で、生徒会執行部や文化部の生徒の達成感にもつながった。が、その他の生徒への交流の広がりや欠けており、次年度の改善点である。「授業や部活などでの地域とのかかわり」63%→54%(△) (2) イ・保護者への情報発信は携帯連絡網を利用し、加入率も順調に伸びた。HPについては様々な情報(部活動、学校行事、説明会等)の更新頻度を増やした。次年度もHPのタイムリーな更新を行う。 「教育情報の提供」満足度74%→75%(○) 携帯連絡網の加入率63%→74%(◎) ウ・体験入学会を含めて計6回の学校説明会を実施し、中学校の教員向けの説明会や近隣の中学校への訪問を行った。次年度は、説明会等より生徒の出番を増やす内容にしていきたい。 学校説明会への参加中学生734人→795人(○)